

第 1 3 回 歯 科 衛 生 研 究 会

平成 1 2 年 8 月

講 演 抄 録 集

日 時 / 平成 1 2 年 8 月 3 日 (木) 午後 5 時 3 0 分

会 場 / 日本歯科大学新潟歯学部アイヴィホール

日本歯科大学新潟短期大学

第 1 3 回 歯科衛生研究会プログラム

日 時 平成12年8月3日(木) 17時30分~19時00分
会 場 日本歯科大学新潟歯学部 アイヴィホール
<講演時間10分、質疑応答時間2分>

[開会の辞]

座長 小山 由美子 先生

<17:30~17:42>

1. 歯科診療時における微生物汚染に関する研究
一歯の切削時の飛沫発生について一

新潟短期大学 ○片野 志保、夏野 徹也
新潟歯学部・保存I 江面 晃

<17:42~17:54>

2. 唾液・高プロリンタンパク質P-Bの電気泳動による検出

新潟短期大学 ○渡辺 祥代、伊勢村 知子

<17:54~18:06>

3. ヒト大臼歯の癒合歯根の形態と組織構造について

新潟短期大学 ○高橋 正志
新潟歯学部・口外II 森 和久、又賀 泉
新潟歯学部・口解I 小林 寛

座長 片野 志保 先生

<18:06~18:18>

4. インプラント治療における歯科衛生士の役割
新潟歯学部附属病院・歯科衛生科

○高山 夕見子、八子 祥子
土田 江見子、菅家 真澄
松岡 恵理子、池田 裕子

<18:18~18:30>

5. 長期メンテナンス患者から学んだこと

新潟歯学部附属病院・歯科衛生科 ○臼杵 野衣、山崎 明子
坂井 由紀
新潟歯学部・歯周 佐藤 修一、長谷川 明

座長 石川 富士郎 先生

<18:30~19:00>

[特別講演]

介護保険制度における歯科衛生士の役割

新潟短期大学 ○梨本 光枝

[閉会の辞]

歯科診療時における微生物汚染に関する研究
一歯の切削時の飛沫発生について一

○片野志保、夏野徹也（新潟短大）、江面 晃
（新潟・保存Ⅰ）

<目的>

歯の切削によって生じる水の飛沫には感染歯質や微生物などの汚染物質が多く含まれている。そのため、術者や介助者、患者もこの汚染を受けている。しかし、汚染の範囲や程度については明確でない。したがって、適切な防護手段は不十分である。そこでわれわれは、まず、歯の切削時の飛沫測定を行い、その汚染防止について検討した。

<実験方法>

顎模型を装着した実習用マネキンを歯科用診療台に固定し、ラバーダム防湿下にて高速エアタービンで切削を行ったときの飛沫について、エアタービンの水量と切削歯種を変えて、飛沫スポット数、面積、分布を測定し、解析を行った。

- ・エアタービン水量：16ml/分（標準量）と60ml/分
- ・歯種：上下顎左右第一大臼歯、上下顎右側中切歯
- ・測定部位：マネキン胸部、術者の腕、介助者の腕、術者の顔面、介助者の顔面

<結果と考察>

高速エアタービンの水量を標準量に調整した方が、飛沫のスポット数、面積ともに少なかった。水量が標準量より多い方では飛沫の範囲が広く、すべての測定場所で飛沫が認められたが、標準量に調整した方では飛沫の範囲は狭く、術者、介助者の顔面にはほとんど飛沫が認められなかった。よって、水量が標準量になるよう調整することが肝要である。

また、切削部位により飛沫の方向は異なり、上顎大白歯ではマネキンの胸部と介助者の腕、下顎大白歯では術者の腕と介助者の腕、前歯ではマネキンの胸部と介助者の腕に多く認められた。このことより、術者、介助者の腕や患者の衣服が汚染にさらされていると思われ、これに対する防止策を検討していく必要があることが結論づけられた。

唾液・高プロリントンパク質P-Bの電気泳動
による検出

○渡辺祥代、伊勢村知子（新潟短大）

<目的>

唾液は口腔組織の保護や摂食の補助因子としての役割を担っており、これらの唾液機能の発現に関しては、唾液タンパク質が深く関わっていると考えられている。私達はその唾液タンパク質の中でも塩基性高プロリントンパク質P-Bについて、その性質と機能を解明したいと考えている。その際電気泳動が有効な手段になると考えられるが、従来私達が行ってきた電気泳動の条件ではP-Bを検出することができなかった。そこでゲルや染色の条件を変えてP-Bの検出法を再検討した。

<材料と方法>

唾液より精製したP-Bを20%SDSポリアクリルアミドゲルにより20mAで2時間又は未変性ゲル（PH2.3）により20mAで5時間泳動した。ゲルサイズは80×90×1mmである。染色はFAST STAINにより行った。

次に、泳動後のゲルをクリアプロット膜に転写し、転写後の膜をFAST STAINで染色した。

<結果・考察>

SDSゲル及びその膜転写物については、1.7μgまで検出可能であり、今後の実験に適用可能であると考えられる。

PH2.3の未変性ゲル及びその膜転写物については、検出は可能であるが感度が悪く、今後更に条件を吟味する必要がある。

ヒト大臼歯の癒合歯根の形態と組織構造について

○高橋正志(新潟短大)、森 和久、又賀 泉
(新潟・口外II)、小林 寛(新潟・口解I)

〔目的〕ヒトの大臼歯の歯根は退化過程にあり、上顎大臼歯の3根の癒合途中の形態である台状根や下顎大臼歯の2根の癒合途中の形態である桶状根など、複雑な形態を示す歯根がみられる。一方、歯根の歯頸部は、歯肉縁下歯石を剥離したり、ルートブレーニングを施す部位であり、その形態や歯質の特徴は歯科衛生士にとって重要である。そこで今回は、ヒト大臼歯の癒合歯根の形態と組織構造について検討した。

〔材料と方法〕材料として、抜去後、ただちに10%中性ホルマリンで固定したヒトの上顎および下顎大臼歯の癒合途中および完全癒合の歯根を使用した。歯根の表面形態を実体顕微鏡下で詳細に観察し、歯髓腔の形態を軟X線撮影装置(SOFRON)で観察した。その後、歯根の水平および頬舌側方向の連続研磨標本を作製し、偏光顕微鏡、位相差顕微鏡、蛍光顕微鏡、マイクロラジオグラフィーで観察した。同一標本の研磨面を10%NaOClで1時間処理後、0.05N HClで1分間腐蝕し、水洗、アルコール脱水し、臨界点乾燥したのち白金蒸着を施し、S-800型走査電顕(日立)で観察した。

〔結果〕大部分の桶状根の下顎大臼歯では、遠心咬頭が消失したり、遠心頬側咬頭が縮小化しており、頬側面の歯頸部が舌側面よりも短く、近遠心根が頬側に閉じた走向を示し、2根が頬側で癒合していた。逆に、2例の2根が舌側で癒合した桶状根の下顎大臼歯では、頬側の咬頭に対して舌側の2咬頭が縮小化し、舌側面の歯頸部が頬側面よりも短く、近遠心根が舌側に閉じた走向を示した。桶状根など、歯根の凹面を呈する部位では、象牙質が薄く、透明度が高く、X線の透過度が低かった。2本の蛍光線の間の幅は他の部位よりもかなり狭かった。

〔考察〕咬合面の各咬頭の大きさの違いと歯根の癒合状態との間には、ある程度の関連が認められたので、今後の詳細な研究により、顎骨に植立中の(歯根が埋伏している)大臼歯の咬合面の形態から歯根の形態を予測することが可能であると考えられる。桶状根など、歯根の凹面を呈する部位では、象牙質形成時には象牙芽細胞層が他の部位とは逆に歯髓側に凸湾しているために、成長速度が遅く、透明度が高く、X線の透過度が低い特殊な象牙質が形成されるものと推察される。

インプラント治療における歯科衛生士の役割

○高山夕見子、八子祥子、土田江見子、菅家真澄、
松岡恵理子、池田裕子(附院・歯衛)

高齢化が進みまた豊かな社会生活になるにつれてQuality Of Life (QOL) : 生活の質の向上が求められるようになってきました。生活の質の向上とは、世代の異なる人々が満足に楽しく社会生活を送ることができることを意味しています。QOLの追究は直接歯科医療にも関係し、歯科医療従事者にとってさらに高度な技術、診断が求められてきており、歯科インプラントはこのようななかで大きな役割を演じてきています。

インプラント治療を長期成功へ導くためには、患者へのインフォームドコンセントはもちろんのこと歯科医療従事者とのコミュニケーションとチームアプローチがインプラント治療成功の大きな鍵となります。

チームアプローチ、これは患者を中心におき歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士が各々の技術と能力を発揮し、互いに協力して治療にあたることを意味します。

チームの一員である歯科衛生士のインプラント治療における役割として次のような項目があげられます。

1. インフォームドコンセント
2. 口腔衛生に対する術前メンテナンス
3. 手術器具、器材の準備(手術日程の調整)
4. 手術の介助
5. 器具、器材の管理
6. リコール、メンテナンス

このように、歯科衛生士の果たす役割は広範囲に及びその業務は極めて重要です。

患者は口腔内のさまざまな訴えをもって来院します。インプラント治療を希望して来院される患者と最初に接する歯科医療従事者は歯科衛生士であることが多いと思われます。

患者からインプラントについての質問があるかもしれませんが、その質問に受け答えること、ここからすでにインフォームドコンセントが始まると言っても過言ではありません。正しい情報を患者に伝えることが求められます。

そして、インプラント治療の一連の流れのなかで患者の口腔衛生に対する指導、評価、手術日程の調整、手術の準備や介助、器具器材の管理保管など欠くことのできない役割について、私達歯科衛生士がどのように携わっているかお話ししたいと思います。

長期メンテナンス患者から学んだこと

○臼杵野衣、山崎明子、坂井由紀（附院・歯衛）
佐藤修一、長谷川明（新潟・歯周）

<はじめに>

16年間の長期来院患者におけるメンテナンス中に発生した問題から、これからの患者管理を考える。

<症例>

患者：26歳 女性

初診：1983年9月8日

主訴：上顎義歯の不適合

現病歴：約5年前に上顎前歯部の動揺を自覚し近医を受診。保存不能と診断され、抜歯および欠損補綴の処置を受ける。その後、義歯の不適合を自覚し、本学受診となる。

診断：慢性辺縁性歯周炎（成人型）

治療経過：

昭和58～59年 初期治療。

昭和59～平成元年 フラップ手術、ヘミセクション、最終補綴。

平成2年～現在 3ヶ月毎のメンテナンスへ移行。今年でメンテナンス11年目を迎える。

現在のPCRは約10%前後に安定しているが、上顎右側第1小臼歯頬側近心に4mmのポケットを認める。平成12年5月のメンテナンス時に下顎左側大臼歯の動揺の増加と歯肉退縮の進行を認めた。

<考察>

普段から将来起こりうる問題を予想し、未然に防ぐ対策を考えておくことの必要性を感じた。

[特別講演]

介護保険制度における歯科衛生士の役割

○梨本光枝（新潟短大）

2000年4月から介護保険が一斉に導入された。この介護保険の大きな柱は、誰もがいつでも住み慣れた地域で生き生きとその人らしく暮らしてゆくことを前提にした支援体制を確立していく事である。その理念としたものは利用者の自立支援と、利用者の選択と自己決定であると言われている。要介護予防という視点から地域価値に光を当て、豊かな生活文化を育てることこそが、コミュニティケアのめざすところでもある。より良い生活を維持するための一番の基本は食ということである。飽食の時代の中で栄養摂取の面だけでなく、食べる楽しみをいかに維持発展させてゆくかということである。今後ますます健康への関心やより良い生活の質への欲求の高まりなど多様化、高度化するニーズに的確に対応することが求められる。こうした中で、口腔ケアに対する認識が高まっている。セルフコントロールが出来るように指導助言する必要性と共に歯科衛生士の果たす役割に期待していきたい。そして信頼に足る社会資源の一つとして自らの仕事に自信と自覚を持って地域の中で支える事を学びとしたい。

次回の「歯科衛生研究会」は平成13年2月中旬（木曜日）に
開催される予定です。
多数の演題の申し込みをお待ちしております。

特別講演の演者変更のお知らせ

今回の特別講演の演者になっておりました新潟短期大学の梨本光枝先生は、先日、骨折され、手術を受けられました。

このため、同じく新潟短期大学の南雲立枝先生に同演題で特別講演をしていただけることになりました。

プログラムの差し替えをよろしくお願い致します。

第 1 3 回 歯科衛生研究会プログラム

日 時 平成12年8月3日(木) 17時30分～19時00分
会 場 日本歯科大学新潟歯学部 アイヴィホール
<講演時間10分、質疑応答時間2分>

[開会の辞]

座長 小山 由美子 先生

<17:30～17:42>

1. 歯科診療時における微生物汚染に関する研究
一歯の切削時の飛沫発生について一

新潟短期大学 ○片野 志保、夏野 徹也
新潟歯学部・保存Ⅰ 江面 晃

<17:42～17:54>

2. 唾液・高プロリントタンパク質P-Bの電気泳動による検出

新潟短期大学 ○渡辺 祥代、伊勢村 知子

<17:54～18:06>

3. ヒト大臼歯の癒合歯根の形態と組織構造について

新潟短期大学 ○高橋 正志
新潟歯学部・口外Ⅱ 森 和久、又賀 泉
新潟歯学部・口解Ⅰ 小林 寛

座長 片野 志保 先生

<18:06～18:18>

4. インプラント治療における歯科衛生士の役割
新潟歯学部附属病院・歯科衛生科

○高山 夕見子、八子 祥子
土田 江見子、菅家 真澄
松岡 恵理子、池田 裕子

<18:18～18:30>

5. 長期メンテナンス患者から学んだこと

新潟歯学部附属病院・歯科衛生科

新潟歯学部・歯周

○臼杵 野衣、山崎 明子
坂井 由紀
佐藤 修一、長谷川 明

座長 石川 富士郎 先生

<18:30～19:00>

[特別講演]

介護保険制度における歯科衛生士の役割

新潟短期大学 ○南雲 立枝

[閉会の辞]

介護保険制度における歯科衛生士の役割

南雲立枝

I 介護保険制度の概要

給付の公正さを担保する仕組み

① 客観的な要介護度の判定方式の導入

② 保険者（財源の管理者）から独立した中立的な「介護認定審査会」における
専門家の合議制の導入

③ 要介護度の定期的な見直しによる介護サービス必要量の実状に合わせた修正

介護支援専門員

自立支援

II 歯科衛生士の役割

早期指導の鍵は「口腔ケア」

・うがい

・歯磨き

・義歯清掃

III その他